

◇◇国内 100 都市を対象に成長可能性をランキング◇◇

厳しい言い方になるが、日本の地方都市はこれまで、限られた大都市に人材を供給し、大都市の稼ぎの一部で財政を支えてもらう構造にあった。しかし、ドイツや米国を見ると、自立して世界から外貨を獲得し、地域経済をけん引している「ローカルハブ」型の地方都市が存在する。

NRI では今回、ローカルハブになりうるポテンシャルの高い都市を見極めるため、都市圏の人口規模等を考慮して選定した国内 100 都市を対象に、産業創発力の現状および将来のポテンシャルを評価した「成長可能性都市ランキング」を作成した（詳細は、[2017年7月5日付弊社ニュースリリース](#)を参照されたい）。

このランキングでは、海外都市の分析結果を踏まえ、ローカルハブの要件として、「多様性を受け入れる風土」「創業・イノベーションを促す取り組み」「多様な産業が根付く基盤」「人材の充実・多様性」「都市の暮らしやすさ」「都市の魅力」の六つを設定し、これらの現状を示す 131 の指標を用いて総合的に分析を行っている。

結果として、実績および将来のポテンシャルを含めた総合的な産業創発力が高いのは、上から順に、**東京 23 区、福岡市、京都市**、また、実績とポテンシャルの差分で見た“伸びしろ”が大きいのは、**福岡市、鹿児島市、つくば市（茨城県）**となった。

福岡市は、産業創発力を構成するすべての要素をバランスよく満たしていた。これまでは産業集積が乏しい支店経済のまちであったが、全国最高評価の「都市の魅力」をはじめ、持てる強みを生かしてビジネスを創出し、東京・大阪・名古屋に次ぐ第 4 の都市圏として成長していくことが期待される。

また、**鹿児島市、久留米市（福岡県）、松本市（長野県）、佐世保市（長崎県）**など、一見、産業創発というイメージが乏しい都市が、都市の魅力や多様性への寛容度等の面で、高いポテンシャルを有していることが分かった。これらの都市では、こうした強みを、企業・人材の誘致、ビジネスの創出につなげていく仕組みの構築が求められる。

この他、産業創発力を構成する六つの視点別のランキングや、人々が志向する多様なライフスタイル（「移住者にやさしく適度に自然がある環境で働く」「リタイア世代が余生を楽しみながら仕事ができる」「子育てしながら働ける環境がある」「起業スピリッツがあり、スモールビジネスにも適している」）に応じたランキングも作成した。いずれかのランキングでトップ 10 に入る都市は全国で 40 都市あった。

今回、成長可能性都市ランキングの作成を通じて、三大都市圏のみならず、地方部にもさまざまな強みを備え、成長のポテンシャルの高い都市が多数あることが分かった。各都市が、限られた国内市場を奪い合うのではなく、自らの強みを生かし、他の都市と差別化を図りながら、「ローカルハブ」となって世界と結びついていくことで、日本全体として成長していくことが期待される。

また、多様な「ローカルハブ」を育てていくことは、地方創生だけでなく、災害に強い強靱（きょうじん）な国土を実現していくことにもつながる。国は単なる「ばらまき」ではなく、各都市の強みやポテンシャルを踏まえ、効率的・効果的に投資を行っていくことが必要であろう。

平成 29 年 8 月 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント 小林 庸至